

仕事か？ 恋愛か？

時は明治の中期、日本は富国強兵を目指し、優秀な青年を国の費用で留学させ、西洋文化を吸収することに国の命運をかけていた。

そんな青年の1人にTがいた。彼は幼くして父を亡くし、母の手一つで育てられた。小学校から脇目も触れず勉強一筋、もし当時模擬試験があれば偏差値は毎回80以上、日本一賢い高校生であったろう。当然、東京帝国大学にストレートで合格、そしてトップで卒業、国家公務員になり、日本の将来を背負う立場にあった。そして、念願のドイツ留学の命令を受ける。ドイツでは、留学生仲間の遊びの誘いも断わり、エリートコースをまっしぐらに進んでいた。しかし、留学して3年後、ロボットのような自分の人生に疑問を抱き始め、上司に反抗するようになる。

そんなある日の夕暮れ、街角で泣いているドイツ人の超美少女Eに出会う。彼女は貧しいダンサーで、父を亡くし、明日までにまとまった金を作らなければ身を売らなければならない身の上だった。Tは自分でもなぜだかわからないまま、Eに金を貸し、窮地を救う。それが縁で2人の清らかな交際が始まった。

だが、上司や留学生仲間や反感を買い、国家公務員をクビになり、出世の道は閉ざされてしまう。だが、Eや日本にいる親友のAの援助で、Eと貧しいながらも楽しい愛の生活を営む。

そんなある日、親友のAが大臣の秘書としてドイツにやってくる。Aは超エリートだったTの才能を惜しみ、大臣に紹介し、もう一度出世のチャンスを与えようとする。しかし、その条件として、Eと別れるように迫る。卑しい職業のEと付き合っているというスキャンダルは出世の妨げになるからである。ところが、その時、EはTの子どもを身ごもっていたのだった。

Aの与えてくれたチャンスを断われれば、Eと愛の生活は続けられる。しかし、外国人であるTには才能を生かせる仕事はない。親子3人暮らしていけるかどうかもわからない。しかも、出世も母の待つ日本に帰るチャンスも二度とない。かといって、Aの条件を承諾すれば、出世や帰国と引き換えに、自分の子どもを宿し自分を信じているEを捨てることになる。

仕事（出世）を選ぶか、恋愛を選ぶか、決断を迫られたTは大いに悩んだ。

Tは、仕事（出世）か、恋愛か、どちらを選ぶべきだろう。